



2022年3・4月号

特集：Computational Imaging（仮）

従来の結像光学系は物体から発した光をレンズで集めるという形で像を形成しているが、近年、物理的な光の集光によらず、物体からの光波の情報を何らかの形で計測し、計算により像を求めるという手法が Computational Imaging という名前で広まりつつある。これにより、3次元画像情報の取得や、散乱体の向こう側にある物体の結像等が可能になる。デジタルホログラフィーや、単一画素イメージングはその代表例である。この特集では、さまざまな Computational Imaging に関して最新の情報を解説していただく。

	特集タイトル	執筆者
1	特集にあたって	OplusE 編集部
2	Computational Imaging 全般の解説（仮）	堀崎遼一（東京大学）
3	「散乱・揺らぎ場の包括的理解と透視の科学」プロジェクトの解説と、そこにおける computational imaging の活用（仮）	的場修（神戸大学）
4	インコヒーレント・デジタル・ホログラフィー（仮）	室井哲彦（NHK 放送技術研究所）
5	Computational Imaging による 3次元形状計測（仮）	栢場皓之（ニコン）
6	ライトフィールド、コンピュータショナルフォトグラフィ、自由視点映像生成（仮）	高橋桂太（名古屋大学）

※特集予定は都合により変更になる場合があります。